

## 令和7年度第2回浜松市美術館協議会会議録

1 開催日時 令和7年1月6日（木）  
10時00分～11時50分

2 開催場所 浜松市美術館2階 講座室

3 出席状況 会長 今田徹  
委員 荒川朋子  
委員 伊内弘康  
委員 石上充代  
委員 伊藤典明  
委員 佐藤聖徳  
(事務局職員)  
市民部文化振興担当部長 嶋野聰  
美術館長 飯室仁志  
秋野不矩美術館長 鈴木英司  
美術館長補佐 徳増宏之  
美術館副主幹 市川智久  
美術館副主幹 若澤久実  
美術館 安岡真理

4 傍聴者 1人

5 議事内容 (1) 外部評価について

(2) 意見交換

(3) その他

6 会議録作成者 市川智久

7 記録の方法 要点記録

8 会議の記録

(事務局) 令和7年度第2回浜松市美術館協議会を開催する。

協議会開催にあたり、覧委員と鈴木委員が所用により欠席となるが、浜松市美術館協議会要綱第5条に基づく委員過半数以上の委員出席となつたため、本会議開

催要件を満たしたことを報告する。なお、傍聴の申し込みは1人である。

(傍聴について出席委員全員 異議なし)

(事務局) はじめに、次第の2、今田会長よりご挨拶をいただく。

(今田会長) 本日は、昨年度に実施した展覧会のご意見と併せて、事務局から提案があった、入館者増の取組みと館蔵品展の実施についてもご意見をいただきたい。活発な議論をお願いする。

(事務局) 続いて、次第の3、嶋野担当部長から挨拶する。

(嶋野担当部長) 委員の皆様から外部評価をいただきお礼申し上げます。学芸員が研究し作り上げた展覧会を、多くの来館者に観ていただけるよう一緒に考えていきたい。令和7年度は12月から年度末の3月にかけ、外壁改修工事のため休館する。本日は、委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

(事務局) 続いて次第の4、飯室館長から挨拶する。

(飯室館長) 各委員の皆様からいただいたご意見を令和8年度からの展覧会に活かしていきたい。外部評価以外の提案事項についても忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

(事務局) ここからは今田会長に進行をお願いする。

(今田会長) 次第の5（1）外部評価の「展覧会」「教育普及活動」「その他」について事務局から説明をお願いする。最初に展覧会に関する取組や評価に対する事務局の回答について説明をお願いする。

(事務局) 平常展について、第3展示室の認知度が低く、館内案内表示の工夫により周知徹底に取組んでいる。館蔵品の活用という点では、温湿度管理等に問題のない場合に限り、展示室外の通路部分やロビーでの展示など可能な限り努めていく。また、SNSを活用した情報発信やAIキャラを使用した施設案内の実施を検討する。

特別展と企画展については、来館者増や中長期的な観点から若年層へのアプローチ手法の検討を実施する。また、夏場に開催するギャラリートークなどイベント実施の暑さ対策として、朝夕などの比較的涼しい時間帯に実施するなどの検討をしていく。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

意見、質問等の発言なし

(今田委員) 浜松市美術館の教育普及活動について事務局より説明をお願いする。

(事務局) 団体鑑賞については、各年齢層へのアプローチの見直しや教育機関への情報提供を推進する。ギャラリートークでは、初心者の方でも理解できるわかりやすい説明に努める。講演会は著作権等の問題がない場合に限り動画配信等の実施を検討する。学芸員講座では実施する展覧会等にとらわれず幅広い分野の取組を検討していく。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

意見、質問等の発言なし

(今田委員) 浜松市美術館のその他について事務局より説明をお願いする。

(事務局) 来館者アンケートについて、展覧会ごとにアンケート内容の見直しを実施する。また、より多くの方に記載していただけるよう配架場所の工夫やA I キャラクターの案内も検討していく。美術館設備については、対処的な対応に留まっているが、快適な鑑賞環境の維持に努めている。令和7年度にはWi-Fi工事などのサービス向上を目的とした設備工事を実施している。展覧会の情報発信については、委員の皆様方から多くのご意見があり、よりわかりやすい展示解説の充実を図っている。事務局としても情報発信の強化は必須と捉えているため、SNS等を活用した発信を継続的に進め、情報発信に知見のある民間人材の活用なども検討していく。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(石上委員) 県立美術館では、出入口付近にアンケート用紙を配架して協力いただいている。また、ご協力いただいた方には絵葉書を渡している。以前は、なるべく均等に抽出してアンケートを記載していただくよう工夫をしていた。現在は予算上の課題により均等抽出は行っておらず、アンケート結果を鵜呑みにするのではなく、どのように解釈すべきかしっかりと吟味し精査する必要があると考えている。

(伊藤委員) 国内外旅行者にアンケート調査を実施しているが、以前は街頭に出向いて聞き取りを行い検証していた。現在はQRコードの読み取り用紙を観光施設に配架し、回答された方には抽選で景品を配っている。母数は取れるがインセンティブが

あるため回答に偏りが生じる。浜松市に立ち寄らなかつた方へ、その理由を分析することが重要と考えアプリやQRコードを設置し調査している。美術館においても例えば浜松城の来訪者を対象としてアンケートを実施し、美術館に立ち寄るか立ち寄らないのか一般客の視点で美術館の魅力調査を実施し、検証するのも必要と考える。

(今田会長) 浜松市美術館のアンケートを秋野不矩美術館で実施し、秋野不矩美術館のアンケートを浜松市美術館で実施し、それぞれで情報共有し今後の美術館運営に活かしていくのはどうか。

(事務局) 検討する。

(今田委員) 浜松市秋野不矩美術館の「展覧会」「教育普及活動」「その他」について事務局より説明をお願いする。

(事務局) 秋野不矩と関わりのある作家の展覧会が軸となるが、日本画に特化するのではなく油絵や彫刻との交流もあり、今後も幅広く秋野不矩を検証する必要がある。また、日本画は温湿度管理が重要で長期間の常設展示が難しく、下図を展示するなど作品の流れを明確にしつつ作品を休ませる工夫に努める。地元の商店街や観光協会との連携を視野に入れて来館者増につなげていきたい。内田あぐり展では、内容と質ともにアンケート調査では高い評価をいただいたが来館者数が伸び悩んでしまった。日本画動物園については、夏休み期間中であったため親子連れの来館者にお越しいただき、多くの来館者を迎えることができた。成果や課題を洗い出し、精査し、今後の展覧会運営に活かすとともに、多くの方に展覧会を周知し来館いただけるよう広報活動を継続的に努めていく。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

(伊内委員) 秋野不矩美術館は天竜区観光の拠点であり、地元の観光協会と連携がとれて非常に良い。今後も引き続き幅広く連携をとり来館者増に努めてほしい。

(今田会長) バスでの団体来館者はどの程度か。

(事務局) 每月10団体程度である。50名を超える団体はスタートを1階と2階に分けて対応している。

(伊藤委員) 団体客は、秋野不矩美術館の来館前後にどこに立ち寄っているか調査しているか。また、作品目的での来館なのか、建物目的での来館なのか、それぞれで効果検証を実施すると今まで見えてなかつた部分が見えてくることもある。

(事務局) 作品目的の方は、浜松市美術館や掛川市二の丸美術館に立ち寄っている。建物目的の方は掛川市ねむの木こども美術館に立ち寄っている方が多い。

(今田委員) 浜松市秋野不矩美術館の教育普及活動について事務局より説明をお願いする。

(事務局) 通常時は講演会等館外での説明を実施しているが、近年の気温上昇に伴う熱中症対策として、館内の搬入口のスペースを利用している。また、地元の小中学校が利用できるよう継続した情報発信に努めている。ワークショップは、幅広い年代に参加してもらえるよう意識している。口コミの情報発信が重要と認識しており、お客様との会話の中で最後に必ずご家族やご友人に紹介してくださいと伝えている。インターナーシップにおいても、学生目線での展覧会の感じ方をSNSで発信し、職員ではない別の情報発信による口コミ効果に期待している。ミュージアムコンサートはリピート率が高く、より多くの方に興味を持っていただけるよう努めている。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

意見、質問等の発言なし

(今田委員) 浜松市秋野不矩美術館のその他について事務局より説明をお願いする。

(事務局) アンケートは受付での記入の呼びかけを実施している。観光客を含め市外県外からの来館者が多く、引き続きSNSを活用した情報発信に努める。

(今田会長) ただいまの説明について、ご意見、ご質問はあるか。

意見、質問等の発言なし

(今田委員) 議題の（2）意見交換について、事務局より説明をお願いする。

(事務局) 美術館から2点議題を提案させていただきたい。「観覧者増に向けた広報の在り方」と「館蔵品展と巡回展のバランス」についてご意見をいただきたい。

(今田会長) はじめに「観覧者増に向けた広報の在り方」についてご意見をお願いする。

(佐藤委員) SNS の世界では膨大な情報が存在し、美術館に関する情報も多く存在している。つまりは、現実の世界とは別の世界がもう一つ存在し、その中に積極的に入るべきか、それともそうではないのか。美術館が浜松市に来るための足掛かりになる存在になるような情報発信が重要になる。来館者数だけではない美術館の在り方を考える必要があるとともに、情報発信の手法も重要になってくる。

(今田会長) 収支と入館者数のバランスについて県立美術館ではどのように考えているか。

(石上委員) 難しい課題であるが上手く展覧会のバランスをとりながら年間計画を立てている。広報ではSNSやYouTube等の業務は切実な問題として捉えている。事務方においても学芸においても片手間で行える業務ではない。本来ならば専門の人材を配置すべきであるが現実的に難しい。その時々でSNS等に長けている人材がいても場当たり的であり、異動して長けている人材がいなくなれば困ってしまう現状がある。意識が低いわけではないが、これだけ複雑化している業務を日常業務として継続的に扱うのは困難である。

現在開催しているジブリ展は、初めてチケットの事前購入制を導入している。広報等で念入りに周知には努めているが、それでも事前購入せずに来館される方が多い。広報が足りないと言えば仕方ないが、情報発信には限界があると感じている。もっとアナログ的な広報も周知という意味では重要であり、SNSと同様に手厚く対応する必要がある

(事務局) この三連休で多くの観光客が美術館を訪れて、外国の方もたくさん来館いただいた。その中で外国からのお客様で、どうしてこのような展覧会を開催していることを発信しないのだと質問があった。職員はできる限り広報発信に努めていたが、やっているつもりが届いていない情報がまだまだあるのだと痛感した。

(伊藤委員) 浜松市のような大きな組織となると業務が縦割りとなり、文化系は文化財課や美術館、外国人などの国際系は国際課でそれぞれ業務を行っている。国際課ではHICEが国際交流を軸として多文化共生を進めている。交流のイベント等も定期的に実施しており、国際課と美術館が情報共有をすれば市内在住の外国の方への情報発信は容易であり今後は実施すべき事案と考える。企画調整部国際課や産業部観光課、市民部美術館と横断的に連携ができればよい。

(荒川委員) 浜松市美術館は周辺の環境に恵まれており、緑豊かな中に浜松城があり少し歩けばカフェもある。美術館の展覧会情報だけではなく周辺の環境も含めて

周辺全体で魅力を高めた広報戦略もいいのでは。内から見るのでなく、外側から客観的に美術館がどう見えるか考えてみてはどうか。

(佐藤委員) 彫刻などの現代アートは若者が興味を持つベクトルがわかりやすい。小学校などで学習した有名な古典的な名作を美術の起点とするのではなく、自分自身の感覚で見たもの、良いと感じたものを美術作品として捉えていく新しい感覚を美術館が取り込み見せてほしい。

(今田会長) 「館蔵品展と巡回展のバランス」についてですが、県立美術館では年間を通して収支も含めバランスをとっているとのことだが、浜松市美術館はどのような考え方で展覧会を計画しているか。

(事務局) 基本的には巡回的な展覧会を2本、学芸員の独自企画展を1本の年間3本の展覧会を実施している。

(今田会長) 浜松市美術館とは逆に秋野不矩美術館は冠である秋野不矩の作品を出さないと、特別展ばかりだと問題があるのでと推測するがいかがか。

(事務局) 秋野不矩作品の展覧会である所蔵品展と、秋野不矩との関わりの深い美術家の展覧会とバランスをとって年間計画を立てている。

(石上委員) 館蔵品では来館者数が望めないとお話しがあったが、そこは諦めずに続けていただきたい。歴史も長く特徴のあるコレクションを活かして、その魅力を分かりやすく最大限に発信していくべきと考える。先ほど事務局より説明があったとおり、空いているスペースなどを活用し自慢のコレクションだと自信をもって積極的にアピールしていくとよい。大ガラス絵展は、浜松市美術館でなければできない大変有意義な展覧会であった。浜松市美術館のポテンシャルが高いことを市民の皆様に知っていただきたい。収支とは話が離れるが、入館者数だけでは計れない潜在的な効果や浜松市美術館がここにある意義を広く市民の皆様に感じていただきたい。

(伊藤委員) 市民の方に素晴らしい所蔵品がある浜松市美術館を誇りに思ってもらえる事が大切であり、そこから二次的効果として口コミ等に波及していくと考える。観光の視点からも口コミは信頼性が高く来訪するきっかけになる。

(今田会長) ここ3年くらいで美術館が運営してきた内容は高い意義があり、小杉コレクション展や大ガラス絵展は、浜松市美術館の存在意義をあらためて若い年代の方に伝えることができたと感じるが、来館者数につながらなかったことも事実と

して受け止め、情報発信の方法を今一度見つめなおす必要性もある。

(伊藤委員) 情報発信において、先ほど民間人材の方からアドバイスをいただいていることだが、そういう観点から市民のアイデンティティを育てるための情報発信の手法を相談してみてはどうか。広報についてですが、手段の一つとして静岡県事業のサブスクがある。このサービスを活用するとサブスクの範囲内でスポーツイベントと併せて美術館を訪れる方も増えるのではないか。

(事務局) サブスクの情報は県から提供を受けている。今年度は外壁工事で休館となるため来年度以降に検討をしていく。

(今田委員) その他、質問意見はあるか。

意見、質問等の発言なし

(徳増館長補佐) 令和7年度第2回浜松市美術館協議会を閉会する。

9 会議録署名人 今田会長